

用語の解説

シーベルト(Sv) 人体が受けた放射線による影響の度合いを表す単位
放射線を安全に管理するための指標として用いられます。

ベクレル(Bq) 放射性物質が放射線を出す能力を表す単位
1ベクレルとは、1秒間に一つの原子核が壊れたときの、放射性物質の放射能（放射線を出す能力）の強さを表します。

スクリーニング 身体の表面における放射性物質の付着の有無を確認する汚染検査のこと
身体に付着している放射性物質は放射線を出し続けるため、放射性物質の付着の有無を検査する必要があります。また付着した放射性物質は、放射性物質が付着した衣類を脱いだり、頭髮の洗髪、皮膚の拭き取り等によって除去することができます。

モニタリング 空気中の放射線量を定期的に、または連続的に監視測定すること
福岡県内には9ヶ所のモニタリングポスト（測定機器）が設置され、大気中の放射線量が連続測定されており、測定結果が福岡県のホームページで公表されています。なお、原子力災害が発生した場合には、放射性物質の拡がりを知るための緊急時モニタリングについても併せて行います。

<http://houshasen.pref.fukuoka.lg.jp/>

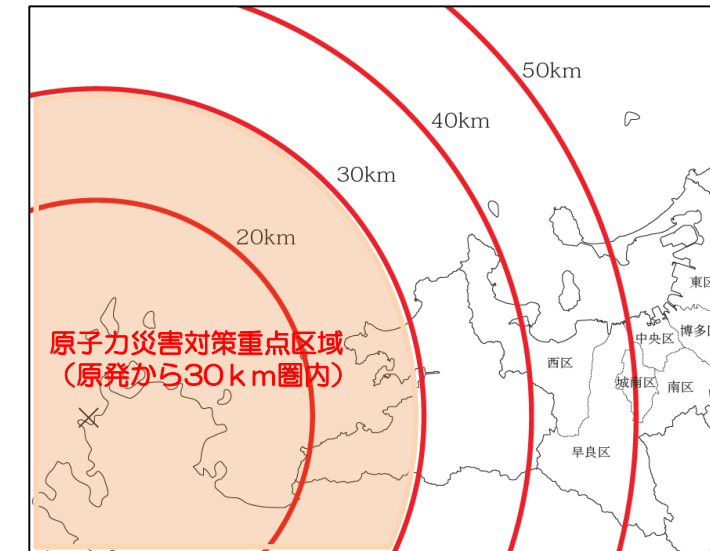


福岡県放射線モニタリングのホームページ

お問い合わせ先 福岡市 市民局 防災企画課
TEL: 092-711-4056
FAX: 092-733-5861
〈作成 令和3年4月〉

原子力災害への備え

玄海原発と福岡市の位置関係



福岡市は、玄海原子力発電所からおよそ 40 ~ 60km に位置しています。国の「原子力災害対策指針」における「原子力災害対策重点区域（原子力発電所から概ね30kmを目安とする区域）」の範囲外ですが、万が一の原子力災害の発生に備えて、独自に原子力防災に取り組んでいます。

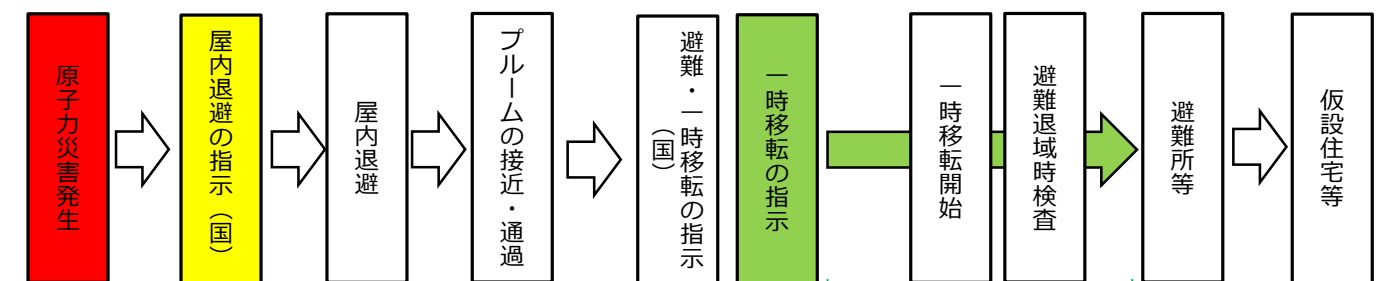
原子力災害が発生した場合の福岡市への影響



原子力発電所から漏れた放射性物質は、風の影響を受けると黄砂やPM2.5などと同じように放射性プルームとして飛散し、広い範囲に影響を及ぼします。
福岡市地域防災計画（原子力災害対策編）においては、万が一の原子力災害の発生時においては、放射性プルームによる被ばくの影響を避けるため、屋内退避を中心とした防護措置を講じることが想定されています。

原子力災害における避難等のながれ

国からの指示に基づき、放射線に対する防護措置等を実施します。



※状況によっては、安定ヨウ素剤の服用が指示される場合があります。

1週間程度の期間

もし原子力災害が起こったら...

まずは、情報の確認！

「うわさ」や憶測に惑わされないで、正確な情報を入手しましょう！

福岡市や国、県の情報に基づいて、落ちついて行動することが大事です。放射性物質は目に見えず、においもなく五感で感じることができません。まずは、国や県、市が発表する情報を確認しましょう。

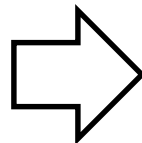
また、万が一の原子力災害が発生したときに、慌てないためには、普段から放射線に関する知識を得ておくことも重要です。

<情報の入手先>

- テレビ、ラジオ
- 福岡市LINE、ツイッター
- 福岡市防災メール
- 福岡市ホームページ
- スマートフォンアプリ「Yahoo! 防災速報」

(登録するには「entry@fukuoka-city.jp」に空メールを送信するか、「福岡市 防災メール」で検索してください)

「ふくおか放射線・放射能情報サイト」では、
県内の放射線量を携帯電話やパソコンで確認できます。



福岡県放射線モニタリングの
ホームページ

放射線から身を守るには(外部被ばくと内部被ばくを避ける)

体外の放射性物質から放射線を浴びるのが「外部被ばく」で、体内に入った放射性物質から放射線を浴びるのが「内部被ばく」です。放射性物質が人体に取り込まれると、体内に残留している間ずっと体の中から放射線を浴び続ける恐れがあります。

外部からの放射線から身を守るには、放射性物質から距離をとる、放射線を受ける時間を短くする、放射線を遮る方法があります。内部被ばくを避けるには、マスクやハンカチで口をふさぎ吸入を防止すること、汚染された水や食べ物をとらないことが重要です。

乳幼児や子どもは被ばくの影響を受けやすいので、できるだけ被ばくを避けるようにしましょう。

放射線から身を守る方法



屋内退避の指示が出たら

屋内に退避すると、屋根や壁で放射線をさえぎることができます。予想被ばく線量が小さい場合は、屋内への退避で放射線の影響を十分に軽減することができます。

チェックポイント

- ドアや窓を全部閉める
- 換気やエアコンは止める
- 外から帰ってきた人は、手や顔を洗い、衣服を着替える
- 屋外で着用した衣服は、ビニール袋に保管し、他の衣服と区別しておく
- ペットは屋内へ入れる
- 屋内の食品にはふたをしたり、ラップをかける
- 広報車や防災メール、テレビやラジオで伝えられる情報に注意する
- 災害時は電話がつながりにくくなるため、電話による問い合わせは控える
- 指示があるまでは、むやみに屋外に出たり、避難を開始しない

一時移転(避難)の指示が出たら

放射線の影響が長期間にわたると予想される場合は、放射線の影響がない地域に避難を行います。指示が行われたら、一定の期間内に慌てずに避難を行ってください。一定の期間内とは、1週間程度が想定されています。

チェックポイント

- 避難先や避難退却時検査の場所など、指示の内容をよく確認する
- 福岡市や警察、消防などの指示に従う
- ガスの元栓をしめ、電気器具のコンセントを抜く
- 持ち出し品をチェック(一般的な持ち出し品リスト)
 - ▽ 飲食、非常食など(3日分)
 - ▽ 慢性疾患などで毎日薬を服用する方は、その薬
 - ▽ 幼児がいる場合は育児用品(おむつ、哺乳瓶、ミルクなど)
 - ▽ 携帯用ラジオ、懐中電灯、電池など
 - ▽ 現金、預金通帳、印鑑、クレジットカード、健康保険証など個人の重要書類
 - ▽ 着替え用衣類(下着、靴下等)、石鹸、タオル、洗顔用具など
 - ▽ 絆創膏、包帯、常用している薬、医薬用品など
 - ▽ 筆記用具、メモ用紙
- 帽子や上着、長ズボンを着用する(肌の露出はできるだけ避ける)
- 戸締まりをする

安定ヨウ素剤について

原子力災害の発生時には、有毒な「放射性ヨウ素」が大気中に放出されるおそれがあります。「ヨウ素」は体内に取り込まれると甲状腺に集まる性質があるため、「安定ヨウ素剤」を飲むことにより、有害な放射性ヨウ素が甲状腺に集まるのを防ぎます。安定ヨウ素剤の配布と服用の指示は、福岡市が行います。